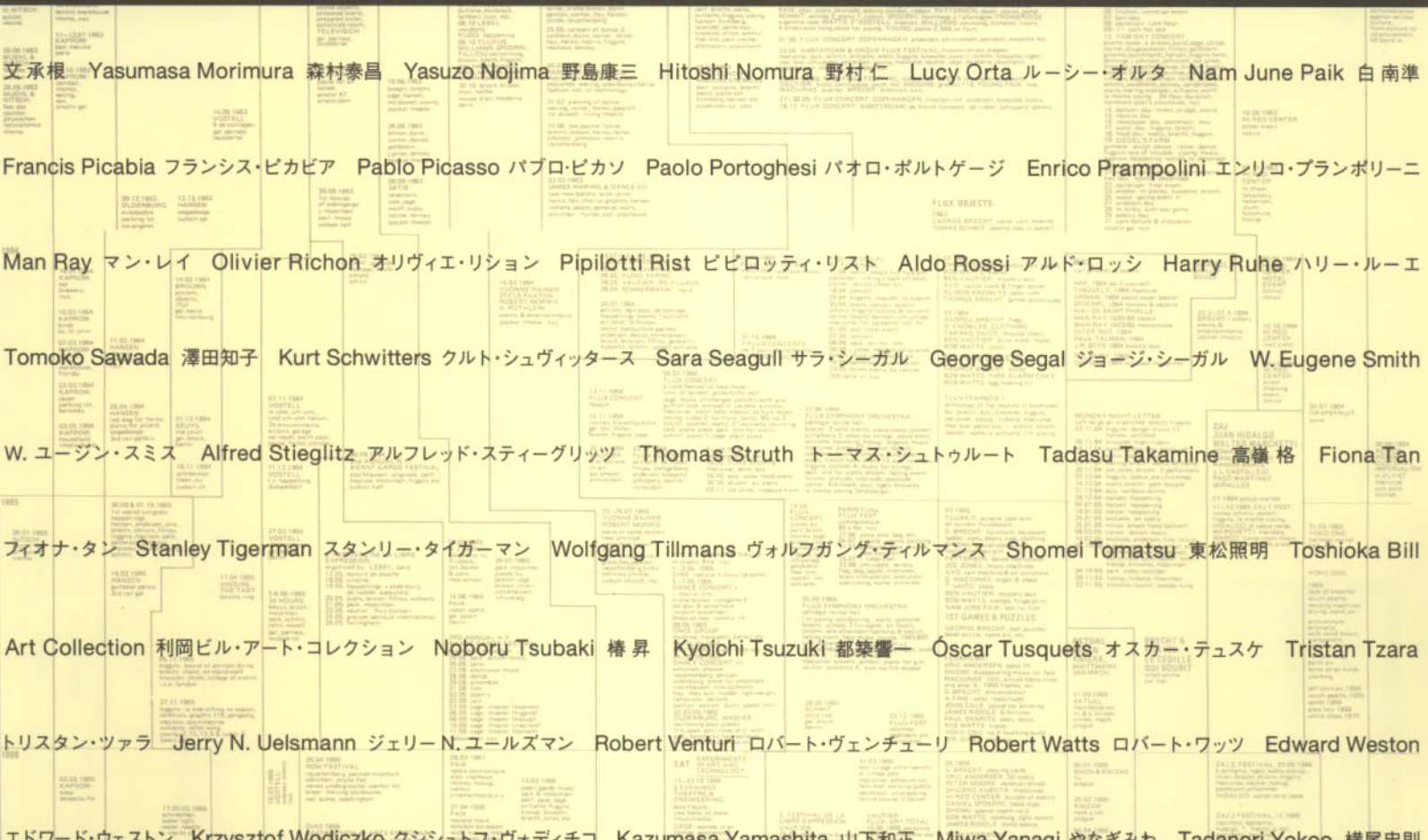


マイ・フェイバリット—とある美術の検索目録／所蔵作品から

My Favorites—Index of a Certain Collection: Selections from the MoMAK Collection

2010年3月24日(水)～5月5日(水・祝) 開館時間：午前9時30分～午後5時(金曜日は午後8時まで開館、入館は閉館の30分前まで)
休館日：毎週月曜日(ただし5月3日は開館) 主催：京都国立近代美術館

観覧料：一般 850(600)円、大学生 450(250)円 ※()内は20名以上の団体料金 ※高校生以下、
心身に障害のある方と付添者1名は無料(入館の際に証明できるものをご提示ください) ●～A Day **京都国立近代美術館** (岡崎公園内)
in the Museum～美術館へ行く：4月4日(日)は全館無料観覧日です。●会期中(～7月1日まで)4階コレクション展(常設展)は開催しておりませんのでご了承ください。





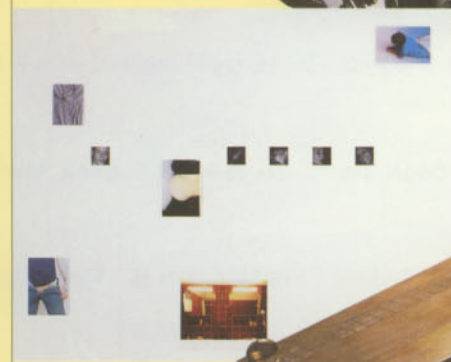
1



2



3



4



5



国立近代美術館京都分館(1963年発足)から京都国立近代美術館となった1967年、わずか4点の美術作品と223点の工芸作品から開始された当館の収蔵品は、2010年3月末の時点で、約1万点の作品、資料を有する大きなものに成長しました。

博物館の発展の一形態として定義される美術館および「近代美術館」では、作品・資料の収集と蓄積、そしてその分類と整理が重要かつ基本的な作業であることは言うまでもありません。分類作業が美術館にとって不可避なものであるが故に、どのような分類項目を採用するかは、その美術館の性格形成に少なからぬ影響を与えることになります。美術館の収蔵品の分類には、

絵画(日本画、洋画)、彫刻、工芸、写真、デザインなど、表現の集約的「性格」を端的に要約する分類、または、油彩、水彩、版画、陶芸、金工など、作品の「技法」を基本に細分化する分類が採用されています。多くの事例では両者を混合・折衷する分類が行われており、当館の場合も、技法別分類を基本としながらもこうした折衷的分类を採用してきました。

しかし、日本画、油彩画、水彩画、素描、版画、彫刻、陶芸、金工、漆工、木工、竹工、ガラス、染織、人形、ジュエリー、書、写真に細分化されている当館の分類群の中に、「その他」(Non-Category)という謎めいた分類項目が存在することはあまり知られていません。興味深いことに、常套的な分類項目に充当することが困難な作品群を暫定的に語るために1978年度から設けられたこの項目の最初の登録品は、マルセル・デュシャンの《ヴァリーズ(トランクの中の箱)》(1955-68)でした。「その他」に分類された作品には、収蔵時点で美術作品として広く認知されているとは言い難かったもの(限りなく美術作品に近い資料を含む)、複数の技法を駆使するもの、明白に分野横断的な問題を志向しているもの、美術と建築・デザイン、彫刻と写真・映像など複数の分野と技法が重なり合うものも多く、私たちが近・現代の美術表現の多様性を理解する上でとても有益な手掛かりを提供してくれます。

社会資産としての美術作品のデータベース化が進行する過程において、美術館における分類項目は統合化と同時に更なる細分化が迫られています。この際限のない収蔵品のタイトル・タグ化(およびメタ・タグ化)の流れの中で、当館の「その他」の分類項目は、批評的意味合いを込めた一時避難の場所として、当館内部において積極的意味合いを見出しつつあります。また「その他」の作品群は、他分類の作品と関係させることで、今まで私たちが気付かなかった「美術の別の物語」を語り始める契機になることがあります。当館の「その他」の検索には「キーワード」ではなく、より非言語的で身体的な何かが有効かもしれません。暗喩としての当館の「その他」は、極めて初歩的なオブジェクト・データベースに例えることができるかもしれません。本展は「その他」の作品群と、それらと親密な関係にある他区分の所蔵作品と資料とを合わせ約200点の展示により、当館が「その他」という分類項目を通じて模索している「別の何か」を紹介することを目指しています。

社会資産としての美術作品のデータベース化が進行する過程において、美術館における分類項目は統合化と同時に更なる細分化が迫られています。この際限のない収蔵品のタイトル・タグ化(およびメタ・タグ化)の流れの中で、当館の「その他」の分類項目は、批評的意味合いを込めた一時避難の場所として、当館内部において積極的意味合いを見出しつつあります。また「その他」の作品群は、他分類の作品と関係させることで、今まで私たちが気付かなかった「美術の別の物語」を語り始める契機になることがあります。当館の「その他」の検索には「キーワード」ではなく、より非言語的で身体的な何かが有効かもしれません。暗喩としての当館の「その他」は、極めて初歩的なオブジェクト・データベースに例えることができるかもしれません。本展は「その他」の作品群と、それらと親密な関係にある他区分の所蔵作品と資料とを合わせ約200点の展示により、当館が「その他」という分類項目を通じて模索している「別の何か」を紹介することを目指しています。

【講演会】

1. ドミニク・ゴンザレス=フォルステル(出品作家)=3月24日(水) 午後6時-7時30分(逐次通訳付)
 2. やなぎみわ(出品作家)=4月2日(金)午後6時-7時30分
 3. 利岡誠夫(「利岡ビル・アート・コレクション」寄贈者)=4月3日(土) 午後2時-3時30分
 4. 笠原恵実子(出品作家)=5月5日(水・祝)午後2時-3時30分
- いずれも京都国立近代美術館1階講堂にて、聴講無料、定員100名(開始時刻の1時間前より受付にて整理券を配布します)

【関連イベント】

クシユトフ・ヴォディチコ講演会
クシユトフ・ヴォディチコ(出品作家)=3月22日(月・祝)午後2時-4時
会場:同志社大学今出川校地明徳館1番教室

主催:同志社大学社会・芸術国際研究センター、同志社大学人文科学研究所、京都国立近代美術館
お問合せ(メール):techizen@mail.doshisha.ac.jp

- 1 カレン・ノール《想像の愉しみ》1981-89年
 - 2 ジュスヴィエーヴ・カデュエ《私の叫びをみて》1989年
 - 3 リチャード・ロング《泥の円》1996年
 - 4 ヴォルフガング・ティルマンス(Kyoto Installation 1988-1999)2000年
 - 5 クシユトフ・ヴォディチコ《If You See Something...》2005年
 - 6 ロバート・ヴェンチュリ《ジュラット》1984年
 - 7 スタンリー・タイガーマン《ティー&コーヒーピッチャ》1983年
 - 8 マルセル・デュシャン《秘めた音で》1916/1964年
 - 9 倉俣史朗《硝子の椅子》1976年 全て京都国立近代美術館蔵
- 表面:ジョージ・マチュラス《Diagram of Historical Development of Fluxus and Other 4 Dimensional, Aural, Optic, Olfactory, Epithelial and Tactile Art Forms》1973/1979年(未完)

【交通案内】

- JR・近鉄京都駅前(A1のりば)から市バス5番 岩倉行「京都都会館美術館前」下車すぐ
- JR・近鉄京都駅前(D1のりば)から市バス100番(急行)銀閣寺行「京都都会館美術館前」下車すぐ
- 阪急烏丸駅・河原町駅、京阪三条駅から市バス5番 岩倉行「京都都会館美術館前」下車すぐ
- 阪急烏丸駅・河原町駅、京阪祇園四条駅から市バス46番 平安神宮行「京都都会館美術館前」下車すぐ
- 市バス他系統「東山二条」または「京都都会館美術館前」下車徒歩約5分
- 地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約10分
- お車で越しの場合、岡崎公園駐車場(地下)をご利用の有料入館者は、駐車場の割引(1台1名)を受けられますので駐車券をお持ちの上お越しください。

